2024年度 りりこ賞受賞校紹介

大阪府
すまいる保育園 八尾南
0歳児 3名　1歳児 9名
2歳児 14名　3歳児 6名
4歳児 2名　5歳児 5名

テーマ

凛々子で子どもたちのウェルビーイングを育み高める「トマトがジャンプして踊ってる!!」

左から
阪口 麻衣先生・山本 恵子先生・平井 和代先生・相馬 由生先生・加藤 由美先生・河内 和美先生

凛々子の栽培を通し、植物にも命があること、お世話をすることで大きな実がなること、自分の口に入るまで何日もの日数が必要なこと、手間暇がかかることを知り、食べ物の大切さを改めて学ぶことができました。調理体験では、自分たちで育てたトマトを使って料理をすることで「楽しい・おいしい・うれしい」という気持ちを友達と共有でき、みんなで力を合わせてやり遂げることの大切さを学べたと思います。また多くの活動において、0歳児から5歳児が一緒になって取り組むことで、異年齢の子の様子を見て真似をしたり、翌年は子ども自身から意欲的に取り組む姿勢が生まれたりもしました。凛々子の栽培・調理活動を通し、子どもたちを真ん中にすえて、園全体でどう支援していくか、また協力・応援していくかを考えることにつながり、結果的に保護者・地域・職員が一丸となって保育を展開する力が生まれたと思います。

活動のねらい

- 食べ物を自ら育てて味わうことを通じ、自分の口に入るまでの過程と食べてからの体への効果を知る。五感を刺激することで感性を豊かにし、自己肯定感を高めチャレンジする力を育む。
- 子どもの興味関心を継続的に引き出し、その思いに寄り添うために保育士・保護者・地域が連携し、子どもを中心に据えた保育展開を連続性のあるものにする。そして、健康な体づくり・温かい心のひだを広げ、地域社会で慈しみに溢れたウェルビーイングにつながる保育を実践する。

活動のハイライト

発表会でトマトダンスを披露

生地からのピザづくりに挑戦

神奈川県
川崎市立 南原小学校
3年生 41名

テーマ

「四里四方」～トマトに愛着をもつ栽培活動～

左から
及川 唯先生、山田 朗子先生

本校は2025年度に創立40周年を迎えるあたり、地域や学校の良さを創出し、もっと地域や仲間とつながることを重点課題としています。そこで、トマト苗の栽培をきっかけに、地域の農家と連携し、収穫したトマトから洋菓子を商品化し販売することで、学校のよさを広げようと考えました。また、「四里四方」という言葉があるように、子どもたちが住む同じ場所で育つトマトに愛着をもちながら栽培活動を行い、その「いのち」をありがたくいただくという食育に取り組みました。半年にわたり熱心にトマト栽培を行い、収穫したトマトを使ったクッキー・シフォンケーキ・ゼリーを開発。南原小学校ブランドを創出し、広く地域や保護者とつながることができました。さらに、オリジナル菓子の宣伝活動から栄養豊富なトマトの良さを認識し、植育から食育につなげました。これらの一連の活動を通し、子どもたちは自分たちができることや可能性を自覚し、ひいては誇りとなったように感じました。

活動のねらい

- 3年生の社会科と関連付けて、地元農家の栽培の工夫や栽培に向けた想いを知り、トマト栽培に意欲をもち、愛情を込めて育てる。
- 総合的な学習の時間に、収穫したトマトの活かし方を話し合い、オリジナル菓子の開発と販売を行う。また、栽培から販売までの過程を整理し、トマトの良さ（栄養価）などと共に、自分たちの学校の商品として保護者・地域に誇りをもって発表をする。

活動のハイライト

栽培方法を研究

オリジナル菓子の開発と販売

長野県
信州大学
教育学部附属
松本小学校
3年生 35人

テーマ

すべていかすはたけ～有機肥料の土で、虫・鳥・草木・子どもの思いの全てをいかしたトマト栽培～

関 大誠先生

昨年度の生活科「はたけで野菜を育てよう」の取り組みから、虫・鳥・草木など、その畑の環境のすべてを愛する子どもたちの姿を大切にしたいと考えました。そこで「すべて生かすはたけ」をテーマに、殺虫成分や化学製品を使わず、有用微生物群発酵のぼかし肥料を使った有機栽培の土づくりから始め、土を育てることを大切にしながらトマトを栽培しました。地元の有機栽培農家に土づくりの極意を聞いたり、畑の場所の適性を考えたり、さらに畝にはトマトを何本植えるのがいいのかなど、子どもたちは多くの課題に直面しながらも教科で学んだ力を使って解決していきました。調理では、保護者の方に子どもたちがアドバイスをもらいながら「一番おいしく食べる」ための調理方法やメニューを自分たちで考えて作りました。最後に保護者の方などに販売体験を行い、トマトが食卓に並ぶまで、どのような過程があるのかを身をもって体験することができました。

活動のねらい

- 畑全体の自然を生かしたトマト栽培を通じて、「むだなものや排除するものはない」という思いを持つこと目指す。
- 子どもたちの「やりたい」を引き出す栽培を目指し、課題を克服するために教科を学ぶという視点を大切にすることで、「子どものやる気」と「教科のねらい」の両方を充実させる。
- 苦労して作ったトマトをおいしく食べることで、目の前にある食材にはさまざまな方の努力と過程があることを知る。

活動のハイライト

有機栽培の土づくりからスタート

校舎内での販売体験

福井県
大飯郡
おおい町立
本郷小学校
特別支援学級 6名

テーマ

「りりこで友だちの輪を広げよう」大作戦 III

左から
見城 可奈先生・岩崎 絢香先生・村松 佳子先生

りりこを共通の話題にして、郡内・他市町の特別支援学級の子どもたちと交流を続けて3年が経ちました。この間の活動を通して、話すことや聞くことに苦手意識のある子どもたちが、自分から話そうとしたり、いつもよりつぶやきが増えたりするなど、他者とコミュニケーションしたいという気持ちが強まることがわかりました。今年は他校からかかしの作り方を聞いて自分たちで作ったり、郡内の合同学習会で4年ぶりに調理実習を実施するなどしました。そこでは各校で育てたりりこを持ち寄り、「りりこカレー」を調理する体験活動を行いました。これは子どもたちの「やってみたい」という声からスタートした活動のため、意欲はもちろん、子ども同士のやりとりもいつもより活発になりました。また、学校での活動を家庭で話したり、家庭の反応を担任に伝えたりするなど、活動がつながって子どもの「やってみたい」という気持ちがどんどん高まっていく喜びも味わえました。

活動のねらい

- りりこを大切に栽培する体験を通し、収穫の喜びを味わう。
- 栽培や調理活動などを通し、自分の思いを表現したり、他校の友達とコミュニケーションを取ったりして、交流を広げる。

活動のハイライト

かかしづくり

郡内4校合同学習会での「りりこカレー」づくり

りりこわくわくプログラム
ご参加の皆さんへ

「りりこわくわくプログラム」にご参加いただき、誠にありがとうございます。
昨年度も多くの学校・園から「りりこわくわく食育実践レポート」をお送りいただきました。子どもたちが楽しみながら生き生きと栽培に取り組んでいる様子や、先生方が活動を実りあるものにするために試行錯誤しながら、子どもたちを支えてくださっていることがよく伝わってきました。活動の様子を教えていただき、心より感謝申し上げます。

昨年度の「りりこ賞」の表彰式で受賞校・園にお伺いした際には、元気と笑顔がいっぱいの子どもたちと会うことができました。子どもたちからは「他の野菜も育ててみたい」「トマトが好きになった」などの嬉しい声を聞くことができ、このプログラムが一人ひとりの心に刻まれた体験となったことを実感し、大変嬉しく感じました。受賞校・園のみならず、プログラムに参加してくれたすべての子どもたちにとって、この経験が成長の糧になることを願ってやみません。

また、昨年度は猛暑の影響による栽培上の苦労が多かった年だったと感じました。水不足で病気が発生したり、実がなる前に花が落ちてしまったりと、栽培の難しさに直面したというレポートが数多くありました。これからも情報発信をはじめ、皆さんの栽培のサポートをできる限り行ってまいりますので、引き続きトマト栽培をお楽しみください。

カゴメが取り組む「植育から始まる食育」をまさに体現している本プログラムを通し、これからも「いのちへの関心」「感謝する心」を育み、「野菜好き」につながる活動を推進してまいります。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

カゴメ株式会社
ブランドコミュニケーション部
CXグループ　藤川 郁美

りりこわくわく食育実践レポート 募集要項

貴校・貴園でのトマトの栽培・調理活動についてレポートを募集しています。

応募資格

「トマト」の苗の栽培・調理活動（2025年度は学校・園、給食、家庭などやり方は問わない）に取り組んだ学校・園の教職員の方

選考基準

●子どもたちが積極的に栽培活動に取り組み、食への興味・関心を高める内容であること。

●他校の参考となり、活用できる内容であること。（例）工夫した栽培、他の学年へ情報や収穫したトマトの共有、など

賞

今年度の優秀実践事例として選出された学校・園には、
「りりこ賞」として記念盾および賞金5万円を進呈いたします。

応募締切

2025年10月31日（金）※応募事例の版権は、カゴメ株式会社に帰属します。

応募方法

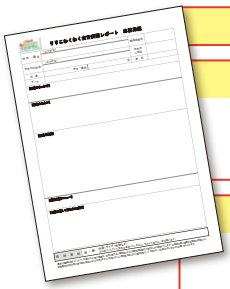
郵送

応募用紙※に必要事項をご記入の上、下記までお送りください。

※「りりこわくわくプログラム」サイト内の「学習関連資料ダウンロード」よりMicrosoft Wordデータをダウンロードしてください。

応募用紙をダウンロードする

URL→https://www.kagome.co.jp/ftl/ryrycowakuwaku/tomatoschool/



応募用紙に必要事項を記入する

応募用紙と資料（レポート）を送付

※ご提出いただいた応募用紙や資料・作品類はご返却いたしません。
子どもたちの絵日記や作文などの作品は、必ずコピーをお送りください。

送り先

〒101-8691　日本郵便株式会社 神田郵便局 郵便私書箱第133号
りりこわくわく食育実践レポート 係
レポート受付期間：9/15～11/31

WEB

下記URLにアクセスしご記入ください。
URL→https://and.kagome.co.jp/c/6h13
※ログインが必要です。

お問い合わせ先

■ お問い合わせ先
りりこわくわくプログラム事務局
Mail：wakuwaku@and.kagome.co.jp
※土・日曜日、祝日、夏季・冬季休業日のお問い合わせは、翌営業日以降のお返事となります。

■ トマトの生育に関する問い合わせ
カゴメトマトの苗　生育相談室
Tel：0120-047-831
Mail：seiiku@tomatonae.com
受付時間／平日10:00～17:00
土日祝日・事務局休業日を除く
受付期間／
2025年3月3日（月）～10月31日（金）

■ 配送に関する問い合わせ
カゴメトマトの苗
プレゼントキャンペーン事務局
Tel：0120-340-330
受付時間／平日10:00～17:00
土・日・祝休日、GW期間
2025年4月29日（火）～5月6日（火）を除く
受付期間／2025年2月3日（月）～6月30日（月）